

植物科学科「フラワーアレンジメント」作品展示

現在、植物科学科2年生、3年生が教科「フラワーデザイン」で製作した作品を長浜コミュニティセンター
高松コミュニティセンターで展示しております。



「コラージュ」 長浜コミュニティセンター

2年生は、「コラージュ」を製作しました。

植物の花や蕾、茎葉を乾燥させたものを材料にして、作者が思い思いに1枚のボード上で絵画調に仕上げていきます。

「コラージュ」とは、20世紀初頭に生まれた美術の表現方法で、フランス語で「のりで貼る」の意味があります。写真や絵や文字などを新聞や雑誌などから切り抜き、これを画用紙などの台紙に貼って1つの作品にするものを指します。この方法で自己表現をする訳ですが、製作過程で人の心が癒される不思議な力が生まれる技法のようです。「フラワーデザイン」では、これに植物がもつ色や質感、香り等の特性を加味し、作る人、見る人をパワーアップして魅了しようとしています。

ぜひ、作者の感性と作品の魅力に触れていただければと思います。



3年生は、「トピアリー」を製作しました。



「トピアリー」 高松コミュニティセンター

「トピアリー」とは、ラテン語の「植物を人工的・立体的に形作る造形物」を意味します。古代ローマ時代の庭師が、生け垣に自分の名前をこっそり刈り込んだのが始まりといわれています。20世紀になってアメリカで、立体フレームや水苔を用いて作るトピアリーによってトピアリー人気が高まり、ディズニーランドでは、ミッキーマウスやキャラクターのトピアリーが飾られています。

トピアリーの種類は、刈り込み型トピアリー、アイビートピアリー、ツゲやピラカンサ等に金網のフレームを被せて育てるメッシュ・トピアリー、フレームに水苔を詰め植物を這わせるトピアリー花壇苗を組み合わせる立体花壇や生花を用いたフラワートピアリーなどがあり、新しいものも考案されています。因みに、日本の菊人形はフラワートピアリーの一つとして海外で高い評価を得ています。

また、トピアリーは情操教育や福祉・健康づくりの面でも注目されています。植物との関わりデザインの考案、形を整えるなど、トピアリーづくりで創造力を活かし、五感を働かせ、手指を使い運動量と人の感性で総合的な活動領域を作ります。成長盛りの子どもの教材に、また認知症対策の高齢者の健康づくりに、作業療法プログラムのひとつとして効果が期待されています。

トピアリーは、園芸装飾にとどまらず福祉・教育・余暇、多角的に広がる可能性に期待されます。



尚、今回の作品の展示は、それぞれ会場で1月10日（月）までとじております。